

(2) IT社会の実現に向けて

【これまでの取組について】

府庁のIT化を目指した「e-ふちょうアクションプラン」を平成13年3月に策定し、以下のような取組をすすめてきました。

- ・インターネットによる情報提供、情報公開、電子申請、電子調達などによる府民サービスの向上
- ・行政文書管理システム・総務サービスセンターの稼働、業務のIT化などによる行政の効率化
- ・総合行政ネットワーク(LGWAN)との接続完了、本庁1人1台パソコン配備、府立インターネットデータセンター(府立iDC)整備など基本的なインフラ整備
- ・障害者の情報と通信技術のサポート拠点であり、企業・府民への情報発信基地となる「大阪府ITステーション」の開所(平成16年度)

また、情報通信技術を活用した大阪圏再生に向けて「e-やんか大阪」を15年6月に策定しました。

- ・デジタルコンテンツ、ITビジネス強化、安全・安心まちづくり、官民連携による住民利便性向上など、「知の大阪」「癒しの大阪」「アジアの中の大阪」の3つの目標を達成する手段として、ITの活用方を提示

さらなる改革のために

府民・企業がITの利便性を実感できる社会の構築をめざします。

ITの急速な発展・普及など社会環境が変化する中、電子申請・電子調達業務の拡大による府民サービスの一層の向上、ITを活用した業務の一層の集約化・効率化、府内市町村・近隣府県・民間等とのITを通じた連携強化が求められています。このため、平成16年3月に策定した「大阪府IT推進プラン」に基づき、取組をすすめます。

取組内容

● 「府民本位のe社会」の推進

ネットワーク上に構築されるバーチャルな府庁が実在の府庁と同様のサービスを提供できるように工夫するとともに、今後の大阪府の活動を利用者本位にしていくため、利用者が参加できる仕組みを整備していきます。

具体的な取組項目

- ▶大阪バーチャル府庁の構築
電子申請の拡充、電子調達の本格導入、府税の電子申告など
- ▶大阪府ITステーションの整備・運営
- ▶コンタクトセンターの設置検討

●「筋肉質なe ふちょう」の実現

ITを活用した業務の集約化・効率化や高度な行政経営をめざします。

具体的な取組項目

- ▶入札契約センター（仮称）の設置（H17 予定）
- ▶建設CALS/EC（公共事業支援情報システム）の推進とそれと一体となった公共事業業務の改革

●府の枠を越えた新たな関係の構築

ITを軸として多様な主体と連携し、行政サービスを向上させ、府民・企業の利便性を高めるとともに、先進的な社会システムの構築に向けた取組を行ないます。

具体的な取組項目

- ▶府内市町村、近隣府県との共同取組の実施
- ▶官民連携地域ポータルサイトの拡充
- ▶先進的ITを活用した実証実験（IPv6、安全・安心なまちづくり など）

●IT推進の基盤整備

IT化による府民・企業の利便性の向上や行政の効率化を図るだけでなく、IT化の推進を図るうえでの基本となる要件についても的確に対応していきます。

具体的な取組内容

- ▶デジタルデバイドの解消、ユニバーサルデザインの推進

✚上記取組を行うとともに、下記課題については既存の研究会等の活用などを図り、検討していきます。

- デジタルアーカイブなど官民連携による保有資産・保有データの活用、情報提供
- 政策形成プラットフォームなどITを活用した行政経営改革の実現
- テレワーク、eラーニングなど誰もが参加し、支えあう新しい社会モデルの創出
- 大阪発IT活用リーディングモデルの構築

(注) デジタルコンテンツ：文章・画像・映像・音楽などの電子データとソフトウェア、またはそれらの組合せによる情報の集合。

バーチャル府庁：ネットワーク上の仮想の大阪府庁。実際の窓口業務と同様の各種行政サービスの提供、情報交流の場としての機能などを持つ。利用者はパソコンなどから、24時間365日、申請・届出といった行政手続や相談・要望が可能になる。

コンタクトセンター：コールセンターともいう。照会・問い合わせ等の電話対応業務を専門的・集中的に行う組織・施設。迅速・一元的な対応が可能となる。

建設CALS/EC：公共事業の計画から設計積算、入札契約、工事施工、維持管理に至る全工程において、紙情報を電子化し、インターネットを介して情報を交換・連絡することなどにより、業務の効率化・迅速化、行政サービスの向上、コスト縮減を目指す取組。

ポータルサイト：玄関のサイトという意味で、ここでは、あらゆる情報やサービスが受けられる仕組みとなっている。

IPv6 (Internet Protocol Version 6)：IPとは、アドレスやネットワーク内での通信経路選定に関する通信規約。現行のIPv4がアドレス量の枯渇が懸念されている中、IPv4をベースに、アドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータ配信などの改良を施したもの。

デジタルデバインド：ITの普及に伴い、コンピュータを所有できるか否か、コンピュータを使いこなせるか否かといった二極化がおこった状態。

ユニバーサルデザイン：すべての人が使いやすいように設計すること。

デジタルアーカイブ：有形・無形の歴史・文化的資産をデジタル情報化し、膨大な情報資産を保管・蓄積するもの。閲覧・鑑賞・研究などのための検索・情報発信等、次世代への継承が容易となる。

プラットフォーム：「基盤、土台」という意味で、ここでは、地域・住民・有識者等の知識や意見を活用・反映しながら政策をすすめるための情報の交換や蓄積をする仕組み、またはこれらの情報基盤を示す。

テレワーク：インターネットなどの情報通信技術を利用し、本来勤務すべき場所以外の場所で仕事をする様々な働き方の総称。自宅で仕事をする「在宅型」、近接の事務所で仕事をする「サテライトオフィス型」、不特定の移動先で仕事をする「モバイル型」など。

eラーニング：インターネットなどのウェブを利用した教育研修。ネット上で会議、講義を聴いたり、自主勉強会を開催したりすることで、短期間での技術習得をめざした人材養成講習を可能とする。